

YP-700C

NATURAL SOUND SYSTEM MODEL YP-700C
GUIDE MANUAL

ヤマハステレオレコードプレーヤー
取扱説明書



 **YAMAHA**

● ご挨拶

このたびはヤマハステレオレコードプレーヤーYP-700Cをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。

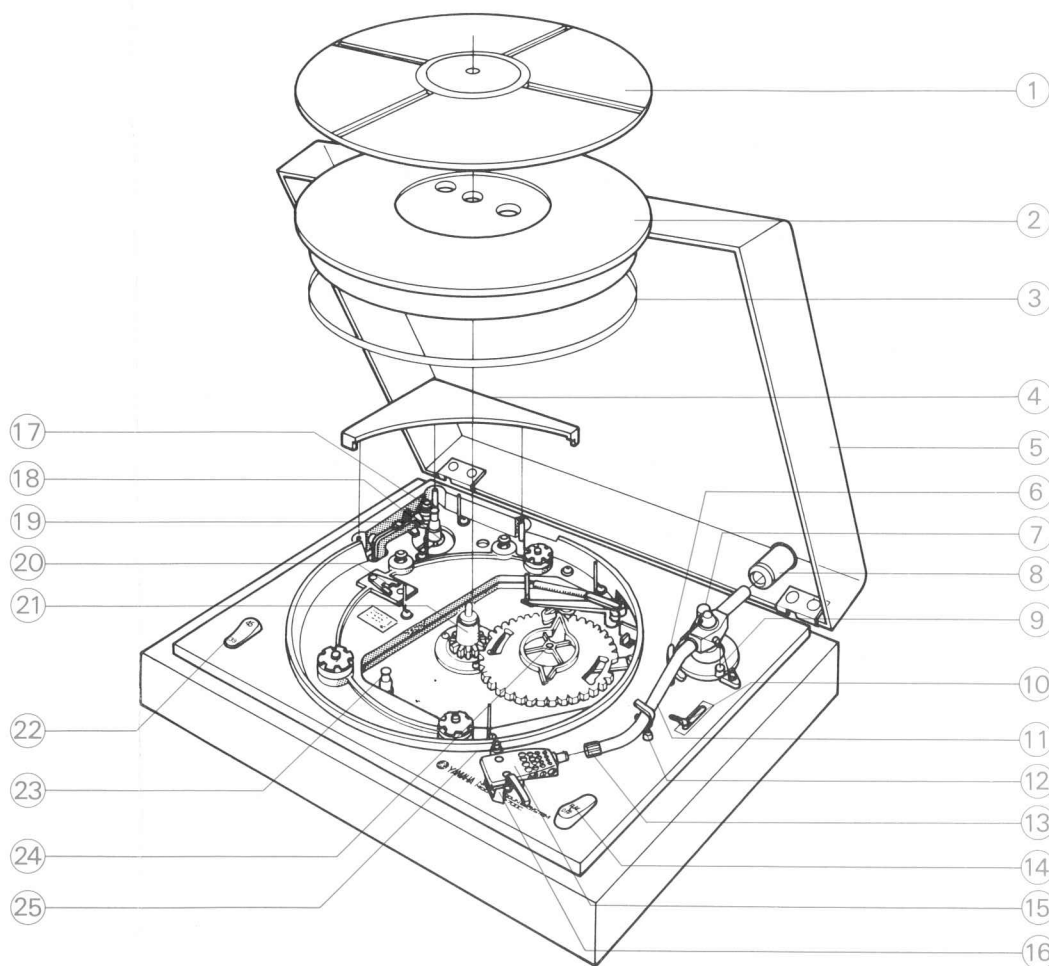
さきにオーディオ専門誌によるベストステレオコンポグランプリで、プレーヤー部門賞を受け、性能、デザインともに完成されたものとなった高級機YP-700を美しい『栓』で仕上げたものです。ダブルフローティングシステムをはじめ、S字型トーンアーム、世界的に定評のあるシユア-M75シリーズカートリッジなど高級機にふさわしい性能と装備をもったプレーヤーです。YP-700Cを長年にわたってお使いいただくため、この取扱説明書をご使用前に是非お読みくださいますようお願いいたします。

● 目次

プレーヤー各部の名称	3
規格・付属品	4
特長・ご使用になる前に	5
プレーヤーの組立にあたって	6
輸送用固定赤ネジの取外し・ターンテーブルをはめる前に	6
ベルトのかけかた・トーンアームの組立	7
ラテラルバランスウエイトの取付け	8
トーンアームの調整	8
ラテラルバランスウエイトの調整	8
針圧調整のしかた	9
アンチスケーターの取付けと調整	10
アンプへの接続・レコード演奏のしかた	11
他のカートリッジを使用するときは	13
針先の交換・保守	14
アクリルカバーの取外し	14
針先の寿命と交換のしかた	14
モーターへの注油	14
異なる電源周波数地域でご使用になるときは	15
故障と思われる時には	16

プレーヤー各部の名称

- ① ゴムシート
(センタープレートの保護ビニール)
(は、使用時に取除いてください。)
- ② ターンテーブル
- ③ 駆動用ベルト
- ④ ベルトカバー
- ⑤ アクリルカバー
- ⑥ トーンアームリフター
- ⑦ ラテラルバランスウエイト
- ⑧ メインウエイト (カウンターウエイト)
- ⑨ アンチスキーター
- ⑩ キューイングレバー
- ⑪ トーンアーム
- ⑫ アームレスト
- ⑬ ヘッドシェル・ロックナット
- ⑭ PLAY & OFFスイッチ
- ⑮ ヘッドシェル
- ⑯ カートリッジ
- ⑰ モータープーリー
- ⑱ 注油口
- ⑲ ベルト切換ガイド
- ⑳ 電源周波数切換スイッチ
- ㉑ センターシャフト
- ㉒ スピード切換スイッチ
- ㉓ 交換用モータープーリー
- ㉔ オートリターン機構
- ㉕ オーバーハング表示灯



規格・付属品

●規格

■ターンテーブル

モーター	アウトローター型シンクロナス
ターンテーブル	30cmアルミダイキャスト
回転数	33 $\frac{1}{3}$, 45rpm 2スピード
駆動方式	ベルトドライブ
支持型式	M.V.O. ダブルフロート
SN比	50dB (5cm/sec 1kHz)
ワウフラッター	0.08%以下

■トーンアーム

型式	S字型スタティックバランスユニバーサルタイプ
全長	295mm+20mm (サブウエイト)
実効長	222mm
オーバーハング	17mm
ヘッドシェル	脱着可・カートリッジ取付EIA
針圧調整機構	直読方式0~4g調整可 (0.5gステップ) <ヘビーカートリッジ用サブウエイト付>

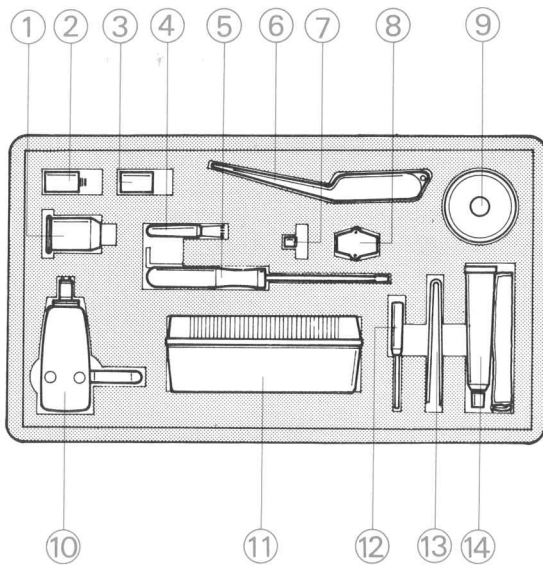
■カートリッジ

型式	MM型・シュアーM75シリーズ(M75B-TYPE 2)
針先	ダイヤモンド0.6mil(交換可)
交換針	シュアーN75-6タイプ2
適正針圧	2.0g
最適負荷抵抗	47k Ω

■その他

付属機構	オートリターン オートカット アンチスキーター キューイングレバー オーバーハング表示兼用パイロットランプ
消費電力	15W
寸法(W×H×D)	480×166×396mm
重量	9.2kg

●上記の規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。



●付属品・メンテナンスボックス

- ① メインウエイト
- ② サブウエイト
自重の重いカートリッジ用で、付属のシュアーM75シリーズ・カートリッジには使用しないでください。
- ③ ラテラルバランス用ウエイト
- ④ 針先掃除用ハケ
- ⑤ ⊕中ドライバー
⊕ドライバーは、輸送用固定ネジを取除くときにお使いください。
- ⑥ オイラー
モーター用オイルで、油注については14頁を参照してください。
- ⑦ アンチスキーター用錘り
- ⑧ ウエイト板
- 自重の軽いカートリッジ用で、ヘッドシェルとカートリッジの間に入れてください。
- ⑨ 45回転ドーナツ盤用アダプター
- ⑩ ヘッドシェル (シュアーM75シリーズ・カートリッジつき)
- ⑪ レコードクリーナー (小ブラシつき)
ケース内の小ブラシは、レコードクリーナーのモケット(布)部分の清掃用で、針先の掃除には使用しないでください。
- ⑫ ⊖小ドライバー
- ⑬ ピンセット
カートリッジをシェルに取付けるとき、ピンリードの着脱にお使いください。
- ⑭ ヤマハクリーナー
アクリル蓋用クリーナーです。レコードには使用しないでください。

特長・ご使用になる前に

●特長

- 精巧なダブルフロートサスペンション(MVO)の採用と、ベルトドライブ方式の採用によって高いSN比を得ています。
- カートリッジには世界的に定評ある名器シュアー M75 シリーズが採用され、すぐれた音質を保証しています。
- 高精度の工作技術によって裏づけされたメカニズムは安定した動作が保証されています。ワンタッチ操作のオート機構、便利なキューイング機構も組込まれています。
- アンチスケーター、ラテラルバランサーも付属しています。

トレース能力の高いS字型アームの採用とあいまって4CH専用カートリッジに換えればディスクリット4CHレコードの再生も可能です。

- 国際規格のシエル交換方式、オーバーハング表示灯など高級機にふさわしい装備です。
- 定評あるヤマハの木工技術と新感覚のデザインを盛りこんだ美しい仕上げのプレーヤーです。

●次のことにご注意ください

- プレーヤー内部に取りつけてある輸送用固定赤ネジ5本は、プレーヤー組立ての前に必ず外してください。また組立、調整はこの取扱説明書の順序通りに行なってください。
- プレーヤーの設置場所には、水平で振動の少ない場所を選び、直射日光の当たる場所や湿気の多い場所、ホコリの多い場所は避けてください。
- 再生中に、再生音の空気振動や床の振動をプレーヤーが拾いハウリングを起こす場合があります。設置にあたっては、なるべくスピーカーの影響を受けないようご注意ください。
- カートリッジがアンプの電源トランスから「ブーン」というハム雑音を拾う場合があります。カートリッジと電源トランスが接近しないような位置をお選びください。
- 針圧は使用カートリッジの適正針圧に合わせてご使用ください。
- スピード切換は、必ずターンテーブルが回っている時に行なってください。ターンテーブルが止まっている時にスピード切換スイッチを押しますとベルト破損の原因になりますのでご注意ください。
- 本製キャビネットやアクリルカバーをシンナー系の液体で拭いたり、シンナー系の殺虫剤等をプレーヤーの近くで散布したりすることは避けてください。掃除する場合は柔かい布で乾拭きするようにしてください。
- お買い上げいただきました際購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証期間中にもかかわらず保証書に販売店印がありませんと、万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、ご了承の上十分ご注意ください。よろしくお願いいたします。

プレーヤーの組立にあたって

●輸送用固定赤ネジの取外し

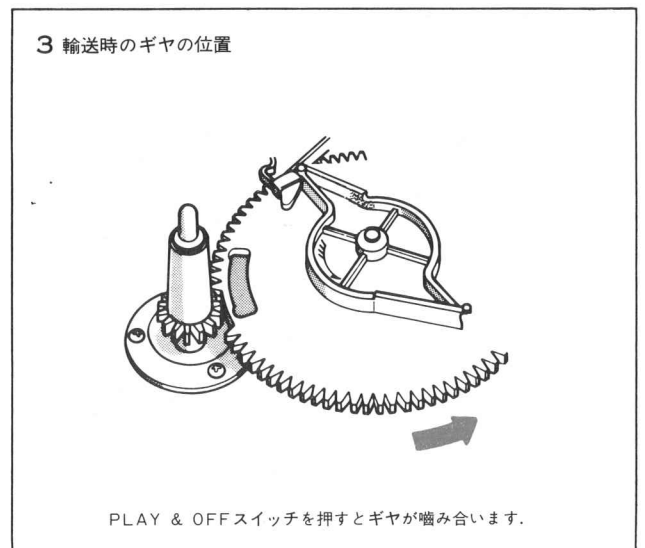
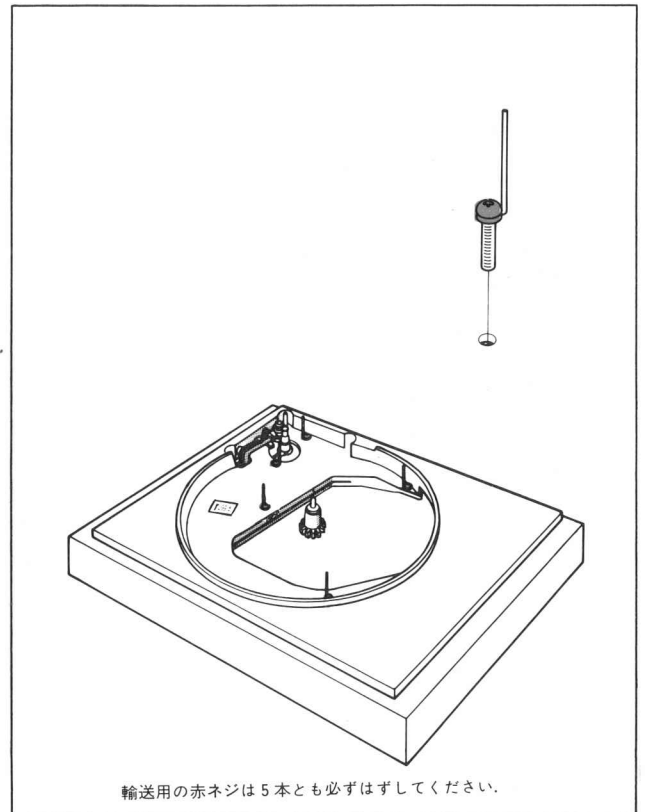
輸送中の振動や事故などから大切な部分を保護するために本機の5ヶ所を輸送用固定赤ネジで固定してあります。これらの赤ネジはご使用になる前に必ず取外すと同時に、引っこしなどで再輸送するときに必要ですので保存しておいてください。赤ネジの5本を図2のような金具とともに取外してください。金具を完全に取外さずに折りまげたりしてターンテーブルをはめてご使用になられますと、ターンテーブルを傷めたり、オート機構がうまく動かなかったりするトラブルが生じますので、この5本の赤ネジは必ず完全に取外してご使用になってください。

●ターンテーブルをはめる前に

輸送用固定赤ネジ5本を取外して、ターンテーブルをセンターシャフトにはめる前に、次のような操作をしてください。

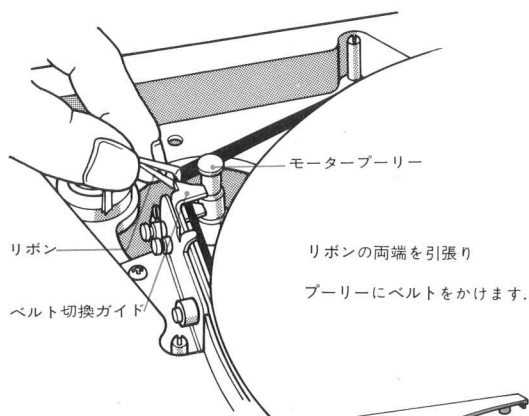
- ①輸送時の保護のため、オートリターン機構のギヤが図3のように矢印がセンターシャフトの傍にくるようセットされて出荷されています。この時ギヤはPLAY状態になっています。
- ②プレーヤーパネル右端にあるPLAY & OFFスイッチを押してください。
- ③オートリターン機構のギヤが少し回ってセンターシャフトのギヤと噛み合います。
- ④この操作のあとでセンターシャフトにターンテーブルをはめてモータープーリーに駆動ベルトをかけるようにしてください。

以上のような操作をしておきますと、プレーヤー組立て後に電源を入れた時、ターンテーブルは少し回って停止し、すぐに使用可能な状態になります。

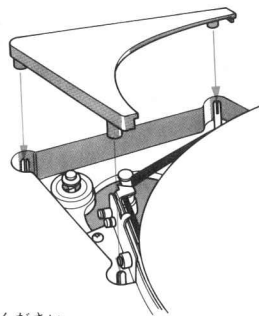


ベルトのかけかた・トーンアームの組立

4 ベルトのかけかた

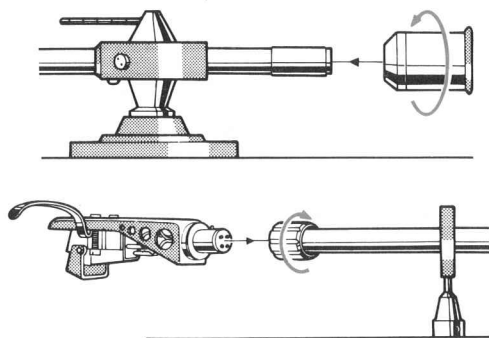


5 ベルトカバーの取付け



3本のピンに合わせて取付けてください。

6 トーンアームの組立て



● ベルトのかけかた

駆動用ベルトは、ターンテーブルの外周にかけられていて、その一端にリボンがはさまれた状態で梱包されています。

- ① プレーヤーパネル左端のスピード切換スイッチを33の方に押し、ベルト切換ガイドを上にあげておきます。
- ② 図4のようにベルトにはさまれているリボンの両端を引張ってベルトを伸ばし、ベルト切換ガイドの間を通してモータープーリーの上側にベルトをかけ、リボンを外します。
- ③ ベルトカバーを図5のように3ヶ所の固定ピンを合わせてはめこんでください。

(注) ベルトは、必ずベルト切換ガイドの間を通してかけてください。又ベルトがねじれてかかからないようご注意ください。

● トーンアームの組立

■ メインウエイトの取付け

- ① メンテナンスボックスに梱包されているメインウエイトを、図6のように矢印の方向に回しながらトーンアームの尾部に押し込みます。
- ② メインウエイト内部に刻まれたラセン溝とアーム尾部のストッパーがかみ合い、メインウエイトは、アーム正面からみて反時計方向(左)に回すとトーンアーム基部の方(前)に、時計方向(右)に回すと尾部の方(後)にスムーズに移動するようになります。

■ ヘッドシェル取付け

- ① 図6のようにヘッドシェルの尾部をトーンアーム先端のソケットへ、ヘッドシェルのピンとトーンアームソケットのスリットを合わせてさしこみ、トーンアーム先端外側のロックナットを反時計方向(左)へ回してしっかり締めてトーンアームに固定してください。

(注) ヘッドシェルの取付けの際は、針先の保護のため針カバーは外さないでおいってください。

トーンアームの組立・調整

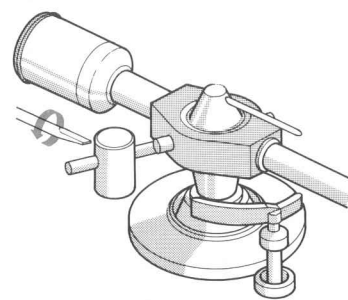
■ラテラルバランスウエイトの取付け

針先をレコード溝に正しくトレースさせるためには、トーンアームの軸を中心とした左右の平衡バランスをとる必要があり、このバランスをとるためにラテラルバランスウエイトが設けられています。

- ① メンテナンスボックス内に梱包されているラテラルバランスウエイトを固定ネジが後側になるようにラテラルバランスシャフトに刻まれた溝の手前のところまで差込みます(図7)

(注)ウエイトがゆるい場合には固定ネジをしめてください。

7 ラテラルバランスウエイトの取付け



固定ネジを前にして図のように差込みます。

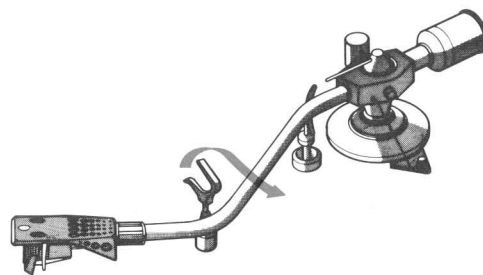
●トーンアームの調整

トーンアームの調整は、次の手順に従っておこなってください。

■ラテラルバランスウエイトの調整

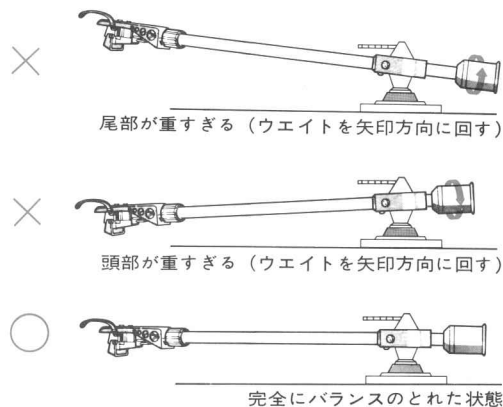
- ① トーンアームをアームレストの右側に持ち上げて移動させます。この操作によりトーンアームはオート機構から解除されてフリーの状態になっていますので、針先を傷めないために針カバーは下ろしておいてください。(図8)
- ② トーンアームが基点を中心に水平バランスするように図9を参考にしてメインウエイトを前後させて調整します。この時メインウエイトはゆっくり回し、バランスの具合をみるときは、フィンガーから指を軽くはなして見るようにして慎重に調整してください。
- ③ バランスがとれましたらトーンアームをアームレストに戻します。

8 トーンアーム移動



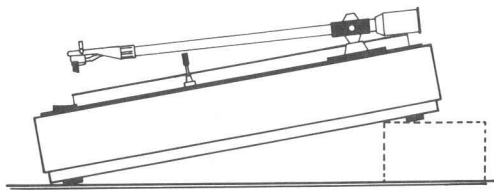
アームをアームレストの外側に引き出します。

9 バランスのとりかた

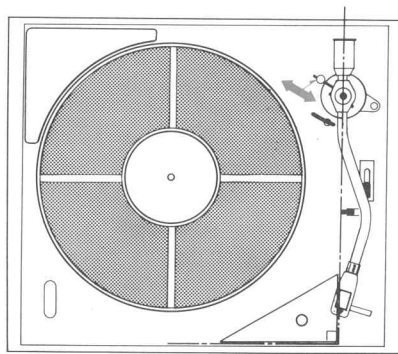


トーンアームの調整

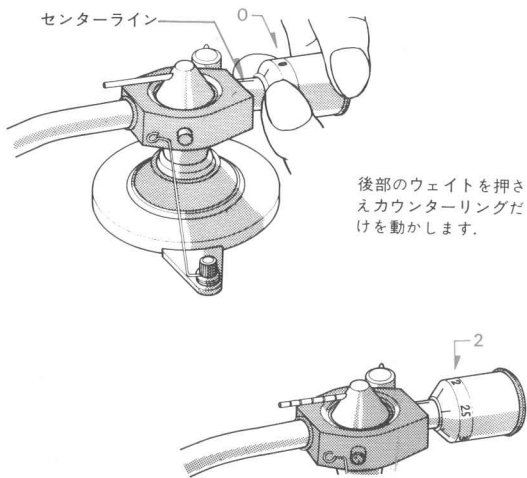
10 ラテラルバランスのとりかた



11



12 針圧調整のしかた



メインウェイトを回しリングの〈2.0〉をセンターラインに合わせます。

④ 図10のようにプレーヤー後部に高さ約85mm程度の物を入れて後部を持ち上げ、プレーヤーに傾斜をつけます。

⑤ トーンアームを①と同様にアームレストの外側に移動させて手をはなします。

⑥ トーンアームの回転軸の中心と針先を結ぶ線が、図11のようにキャビネットの前フチに対して直角になるようにラテラルバランスウェイトを移動させて調整します。トーンアームがターンテーブル側に流れるようならウェイトは左へ、外側に流れるようなら右へ動かして微調整してください。

⑦ トーンアームをアームレストに戻します。

■針圧調整のしかた

ラテラルバランスウェイトの調整が終わりましたら、トーンアームの針圧を調整してください。この時メインウェイトがラテラルバランスを調整した時の位置から動いてない（メインウェイトが前後してない）ことを確認してください。

① トーンアームをアームレストに固定します。

② メインウェイトが動かないように、メインウェイト前部のカウンターリングだけを動かして数字の0をトーンアーム軸上部のセンターラインに合わせます。（図12）

③ メインウェイト後部を回しますとカウンターリングも一緒に回りますので、メインウェイトをアーム前部より見て反時計方向に回してカウンターリングの数字2.0をトーンアーム軸上部のセンターラインに合わせます。（図12）

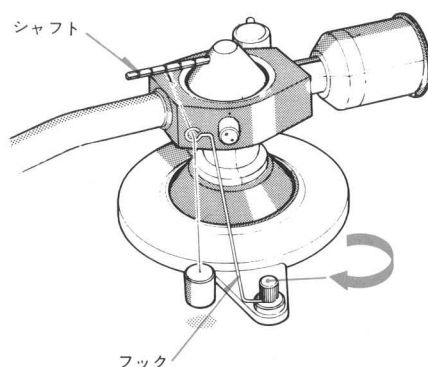
トーンアームの調整

■アンチスキーターの取付けと調整

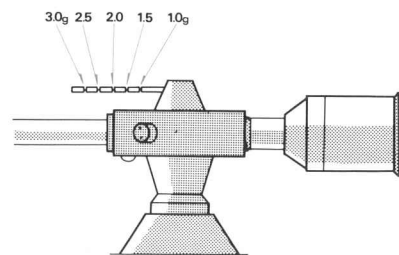
アンチスキーターは、トーンアームの針先がレコード音溝をトレースする際にレコードの左右の音溝に対しバランス良くトレースし音が歪んだりするのを防止する機構です。

- ① メンテナンスボックスの中に入っているアンチスキーターの錘りの糸を図13のようにアンチスキーター用シャフトの溝にかけ、錘り側をフックにかけます。
- ② 糸の位置は、針圧によって異なりますので図14を参考にして正しい位置にかけてください。付属のシュア-M75シリーズ・カートリッジの適正針圧は、2.0gですので2.0gの溝に糸をかけます。又カートリッジを付属のものから他のものに交換した場合は、そのカートリッジの適正針圧により糸をかける位置が変わりますのでご注意ください。
- ③ 図13を参考にして、トーンアームがアームレストの位置にある時に錘りがプレーヤーパネル面に触れない位置にフック固定ネジを締めてフックを仮固定します。
- ④ トーンアームをレコード面最内周位置に移動したとき、錘りがフック上部にあたらないうでしたら、フック固定ネジをしっかりと締め固定します。もしあたるようでしたら③で仮固定したフックの位置を動かしてプレーヤーパネル面にもフックにも触れない位置を捜して固定してください。

13 アンチスキーター錘りの取付け



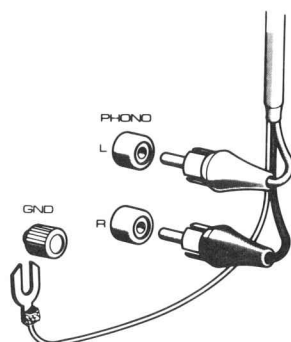
14 アンチスキーターの調整



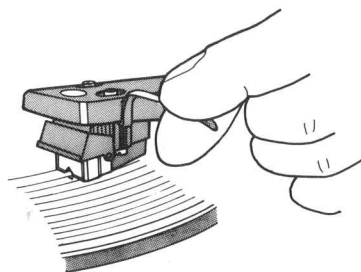
糸は2.0の溝にかけます。

アンプへの接続・レコード演奏

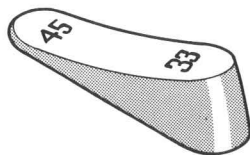
15 オーディオアンプへの接続



16 レコード演奏のしかた



17 スピード切換スイッチ(PLAY & OFFスイッチ)



●オーディオアンプへの接続

- ① キャビネット背面より出ている出力コードのL, Rを間違えないように、アンプリアパネル面PHONO端子へ接続します。ピンジャック白がLチャンネル、赤がRチャンネルです。
- ② 出力コード先端より出ている黒のアース線をアンプのGND端子へ接続します。このとき場合によっては接続しない方がハムに対してよい結果を得られることがあります。(図15)
- ③ プレーヤーの電源プラグをA.C. コンセント (又はアンプリアパネル面予備電源コンセント) に接続します。

●レコード演奏のしかた

- ① 接続したオーディオアンプのファンクションスイッチをPHONOにします。
- ② 演奏するレコードをターンテーブルに乗せます。レコードがドーナツ盤の場合は、メンテナンスボックス内の45RPMアダプターを使用してターンテーブルに乗せます。
- ③ キューイングレバーが▼ (DOWN) の位置になっていることを確認してから、トーンアームのカートリッジの針先をレコード面上のお聴きになりたい位置にもってゆきます。(図16)
- ④ PLAY&OFFスイッチを押し、ターンテーブルが回り始めましたら回転数がレコードの回転数に合っているかどうかを確認し、違っている場合は、スピード切換スイッチを正しい回転数に合わせます。(図17)
- ⑤ ターンテーブルが回り始めた後、アームは静かにレコード面上に降りレコード演奏がはじまります。この時キューイングレバーが▼ (UP) 位置になっていますとターンテーブルは回りますがトーンアームはレコード面上に降りずレコード演奏はできませんのでご注意ください。
レコード演奏が終わると自動的に針先はレコード面より離れトーンアームはアームレストに戻りターンテーブルも停止します。

レコード演奏のしかた

■レコード演奏を途中でやめたいときは……

レコード演奏を途中でやめたい時は、PLAY&OFFスイッチを押してください。トーンアームは自動的にレコード面より離れ、アームレストに戻りターンテーブルも停止します。

■キューイング機構の使いかた

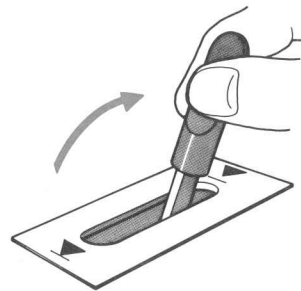
トーンアームの右側パネル面にあるキューイングレバーは、レコード演奏を演奏中に一時中断したいときに使う便利な機構です。(図18)

- ①レコード演奏中、キューイングレバーを▼(UP)の位置にすると、ターンテーブルは回転したままでトーンアームがレコード面より離れ、演奏は中断されます。
- ②再びレコード演奏を行ないたいときはキューイングレバーを▼(UP)位置から▼(DOWN)位置にすれば、トーンアームはレコード面に降り演奏は再開されます。

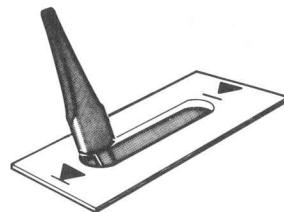
キューイングレバーを▼(UP)の位置にしてレコード演奏を中断した後、そのままプレーヤーを停めたいときは、PLAY&OFFスイッチを押してください。トーンアームはアームレストに戻りターンテーブルもとまりますのでその後でキューイングレバーを▼(DOWN)の位置に戻しておいてください。

(注) キューイングレバーの操作は静かに行なってください。急激な操作はトーンアームがバウンドして針先を傷める原因などにもなりますのでご注意ください。

18 キューイングレバー (UP)

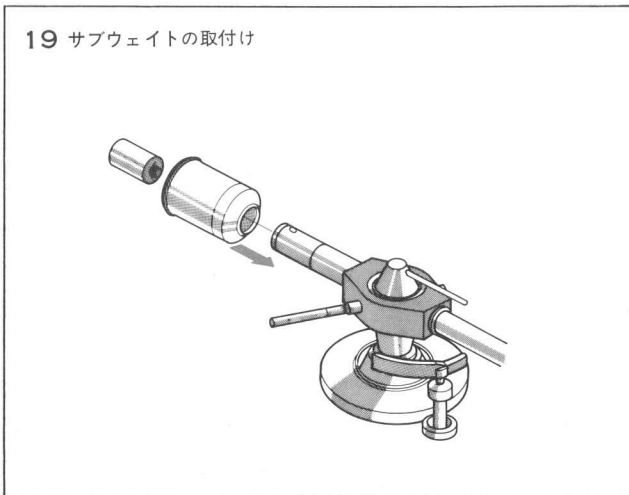


キューイングレバー (DOWN)

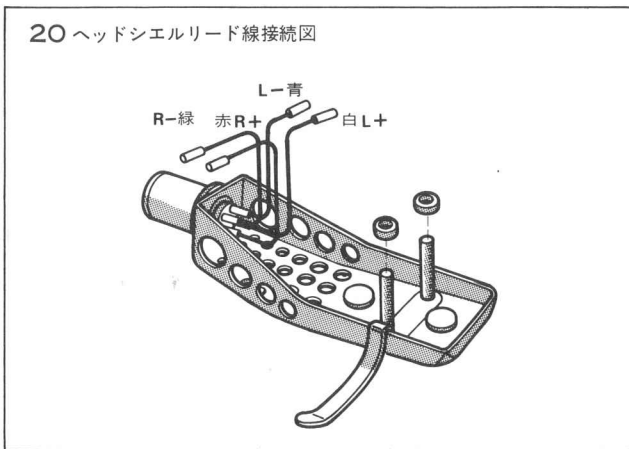


他のカートリッジを使用するときは……

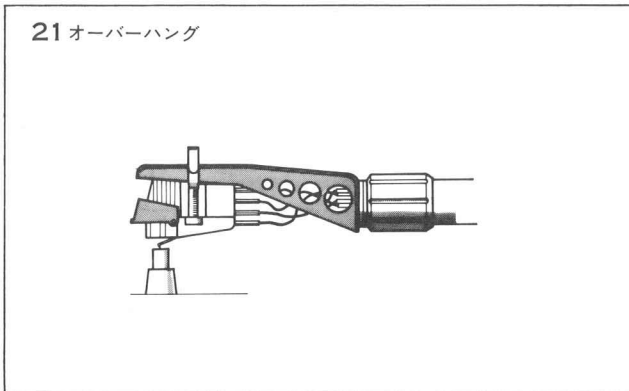
19 サブウェイトの取付け



20 ヘッドシェルリード線接続図



21 オーバーハング



●他のカートリッジを使用するときは……

トーンアームのヘッドシェルは交換可能ですので、EIA規格のヘッドシェルなら付属のものと交換して使用することができます。

■使用できるカートリッジの自重とサブウェイトの使いかた。シェルとカートリッジを合わせた全重量が11~27gまでのものなら使用できます。全重量が22g以上の場合は、付属のサブウェイトを取付けて使用できますが、重量が27gを越すものは使用できません。サブウェイトは、メンテナンスボックスの中に入っていますので必要なときは次のように取付けて使用してください。(図19)

- ①メインウェイトを取外します。
- ②サブウェイトをトーンアーム尾部にねじ込みます。
- ③再びメインウェイトを取付けます。
- ④トーンアームの調整の項を参照してラテラルバランス、針圧などを調整してください。

■ヘッドシェルへの取付け

シェル内のリード線は図20のようになっていますので、カートリッジの各ピンに正しく接続してください。

■オーバーハングの調整

トーンアームのオーバーハングは、16.6mmに設計されています。トーンアームを動かしたとき、針先がオーバーハング表示灯の中心に位置するようにカートリッジを動かして調整してください。ヤマハスペアシェルHS-700ならカートリッジ取付穴がダ円になっていますのでカートリッジを前後にスライドさせて調整します。又取付穴がいくつかあいているようなシェルなら表示灯の中心に一番近くなる取付穴に取付けてください。(図21)

針先の交換・保守

●アクリルカバーの取外し

アクリルカバーは取外し可能になっていますので、希望により取外してご使用になることができます。取外し方は図22のように矢印方向に静かに押しますと簡単に外れます。又取付けるときは突起と溝を合わせて取外すときの逆の操作をすれば簡単に取付けることができます。

●針先の寿命と交換のしかた

針先はダイヤ針を使用しています。寿命はご使用になるレコードの状態によって異なりますが、200～300時間が平均です。針先が磨耗すると音が歪んだりビリついたりする上レコードを傷める原因にもなりますので、針先は早めに交換してください。交換針はヤマハステレオ特約店に用意されていますので、YP-700用・シュア-N75-6TYPEII とご指定ください。

■針先の交換

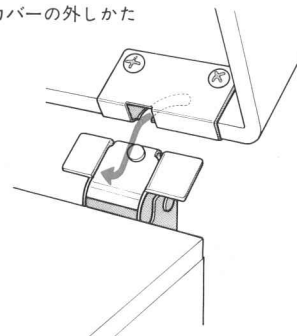
- ① トーンアームからヘッドシェルを取外します。
- ② 古い針先ホルダを手前に引いて取外します（図23）
- ③ 新しい針先を②と逆の方法でしっかりさしこみます。
- ④ ヘッドシェルをトーンアームに取付けます。

（注）針先の損傷及びカンチレバーの折損等は保証致しかねますのでご使用上特にご注意ください。

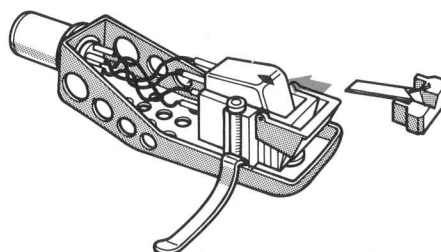
●モーターへの注油

付属のオイラーで図24の注油孔とターンテーブルセンターシャフトへ1年に1～2滴注油してください。この時あまりたくさん注油しないように注意してください。

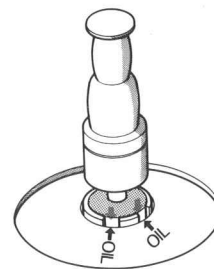
22 アクリルカバーの外しかた



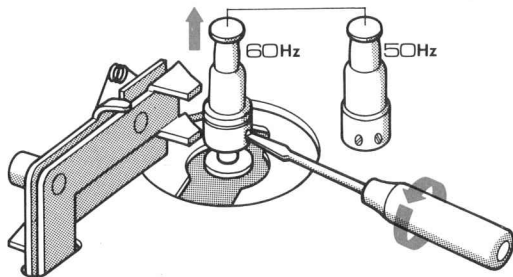
23 針先の交換



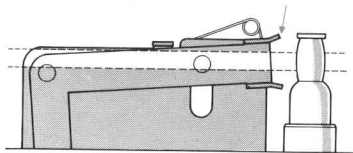
24 モーターへの注油



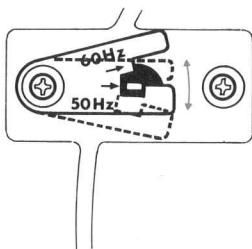
25 プーリーの交換



26 プーリー取付け位置



27 周波数切替スイッチの切替



●異なる電源周波数地域で ご使用になるときは……

お買い求めの後に移転などで異なる電源周波数地域でご使用になる時は、モータープーリーを交換し、周波数切替スイッチを切替えてください。交換するモータープーリーは、プレーヤー本体に内蔵されています。

■モータープーリーの交換

- ① ターンテーブルを外し図25のようにモータープーリー側面の2本のネジをゆるめて上に引張り外します。
- ② 新しい交換用モータープーリー（60Hz用には溝が刻んであります）をはめます。
- ③ ベルト切替ガイドを33回転、45回転の状態にした時、ベルトがベルト切替ガイドに触れない位置にプーリーを固定します。（図26）
- ④ スピード切替がスムーズにできることを確認します。

（注）手の汚れや油がプーリーに付着しないようご注意ください。

■周波数切替スイッチの切替

- ① 周波数切替銘板固定ビスをゆるめます。
- ② 適合周波数側へレバをたおし、周波数切替銘板をレバーへ当てるように移動して固定ビスを締めてください。（図27）

故障と思われる時には……

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、次の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは疑

問の点がございましたら、お買上げ店又は日本楽器各支店のオーディオ技術係にサービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
PLAY & OFFスイッチを押してもターンテーブルが回転しない	電源コードが電灯線コンセントにしっかり差込まれていない	コンセントにしっかり差込み直す
	ベルトをかけ忘れている	ベルトをモータープリーにかける
	ベルトがはずれている	ベルトをターンテーブル、モータープリーにかける
	ベルトが切れている	ベルトを交換する
トーンアームが降りない	キューイングレバーが▼(UP)になっている	レバーを▼(DOWN)にする
レコード面に針先を降ろしても音が出ない	アンプとの接続が不完全	ピンコードの接続を確認する
	交換したカートリッジの寸法が適切でないため、カートリッジの腹がレコード面に擦っている	適切な寸法のカートリッジに付け直す ("他カートリッジを使用するとき"の項参照)
ターンテーブルの回転が遅かったり、回転ムラ(ワウ・フラッター)が起こる	ターンテーブル外周やモータープリー、ベルトなどに油が付着してスリップしている	油などで汚れている部分を四塩化炭素(薬局で売っています)などで、きれいに清掃する
	ベルトが伸びている	ベルトを交換する

スピーカーからモーター音が聞こえる	プレーヤー組立の際に輸送用固定赤ネジ5本を取り除いていない	輸送用固定ネジを取り除く ("輸送用固定ネジの取外し"の項参照)
再生音がひずんでいて聴きにくいまたは、"チリチリ""バチバチ"という音がして煩わしかったり、特に高音域がひずんで汚ない	プレーヤーが水平でなく傾いている	水平に設置し直す
	針先にホコリなどが付着している	針先掃除ハケできれいにする
	針先が磨耗している	針先を交換する
	レコード自体が傷んでいたり、ホコリやゴミがついている	レコードを新しいものと交換してみる
	針圧が軽すぎるか、重すぎる	使用カートリッジの適正針圧に調整し直す
	接続しているアンプの高音(TREBLE)を上げすぎている	高音(TREBLE)をFLATポジションに戻してみる

レコード演奏のとき、"ブーン"というハム音が入る	プレーヤーのアース線をアンプのアース端子に接続していない	アース線をアース端子に接続する (接続しない方がいい場合もある)
再生音がふるえたり、ハウリング("ボワーン"という音)を起して聴きにくい	プレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定で、振動が伝わったり、共振している	しっかりした場所に移したり、スピーカーから遠ざけるなど設置場所を変えてみる
	接続しているアンプの低音(BASS)を上げすぎている(あるいはラウドネスをかけすぎている)	低音(BASS)をFLATポジションに戻してみる (ラウドネスを絞るかOFFにする)
	狭い部屋で極端に再生音を大きくしている	VOLUMEを絞って再生音を小さくする
スピードが切換わらない	ベルトをベルト切換ガイドに通していない	ベルト切換ベルトをガイドに通す
オートリターン機構が早く働いてレコード演奏が中断されてしまったり、レコードによってオートリターン機構が働いたり働かなかったりする	そのレコードだけの症状ならば、センターホールが偏心しているか、レコードが規格から外れている	レコードを交換してみる
	他のレコードでも同様な現象が起こる場合は、プレーヤーの調整不良	日本楽器各支店オーディオ技術係に相談する

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器各支店オーディオサービス係へお願い致します。

■支店への持込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買上店又は最寄りのヤマハ各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお得ですし短期間でおなおしすることができます。裏表紙のヤマハ各支店の住所と電話番号をご参照ください。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか？”とお思いになる点がございましたら、まず“故障と思われる時には……”の項をお読みになってください。故障ではなく、ご自分でかんたんにおなおしになれる場合もあると思います。（ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障ではない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきます）

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。（ステレオの具合をもう少しくわしくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によってお約束を変更しなければならないようなときに、お客様にご迷惑をおかけしないですみます）

■故障の状態はくわしく

サービスをご依頼なさるときは、故障の状態をできるだけくわしくお知らせください。またステレオの型番、製造番号などもあわせてお知らせください。（サービスにお伺いする際、あらかじめ補修部品などを手配し、二度お伺いしなければならぬようなご迷惑をおかけすることがありません）

■サービスのお約束

お仕事の関係で昼間ご不在がちのお客様や留守勝ちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂

きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪くなられましたら、できるだけおはやくご連絡くださるようお願い致します。（事前にご連絡をいただきませんと、ご不在の場合でも、出張料を頂戴いたしますので、ご注意ください）

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施致します。尚補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

■万一お買上店でのサービスについてのご不満又は製品の不調や疑問がございましたら、ご面倒ではございますが、下記ヤマハ各支店オーディオサービス係にご連絡くださいますようお願い致します。

■各支店住所（オーディオサービス係）

本 社・〒430	浜松市中沢町10-1(ステレオサービス課) TEL (0534)61-1111(大代表)
東京支店・〒104	東京都中央区銀座7-9-18(パールビル内) TEL (03)572-3111
大阪支店・〒564	吹田市新芦屋下1-16 TEL (06)877-5151
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)431-2151
北海道支店・〒060	札幌市中央区南十条西1-4(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台支店・〒980	仙台市一番町2-6-5 TEL (022)27-8511
広島支店・〒731-01	広島市祇園町西原862(技術センターニシリック倉庫内) TEL (08287)4-3787
浜松支店・〒430	浜松市鍛冶町122 TEL (0534)54-4111

日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL・0534(61)1111	神戸店	〒650 神戸市生田区元町通り2-188 TEL・078(321)1191
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL・03(572)3111	四国店	〒760 高松市丸亀町8-7 TEL・0878(51)7777
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL・03(572)3111	名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL・052(201)5141
渋谷店	〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7 TEL・03(463)4221	九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL・092(431)2151
池袋店	〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2 TEL・03(981)5271	福岡店	〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内 TEL・092(721)7621
横浜店	〒220 横浜西区南幸2-15-13 TEL・045(311)1201	小倉店	〒803 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL・093(531)4331
相鉄店	〒220 横浜西区南幸1-5-1/相鉄ジョイナス内 TEL・045(311)6361~4	北海道支店	〒060 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター内 TEL・011(512)6111
千葉店	〒280 千葉市中央4-2-1/まつだやビル内 TEL・0472(24)6111	仙台支店	〒980 仙台市1番町2-6-5 TEL・0222(27)8511
大阪支店	〒564 吹田市新芦屋下1-16 TEL・06(877)5151	広島支店	〒730 広島市紙屋町1-1-18 TEL・0822(48)4511
心齋橋店	〒542 大阪南区心齋橋筋2-39 TEL・06(211)8331	浜松支店	〒430 浜松市鍛冶町122 TEL・0534(54)4111
梅田店	〒530 大阪北区梅田1/阪神百貨店5階 TEL・06(345)4731	海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ ・シンガポール・フィリピン